

リズムについて

麴町小學校長 土川 五郎

リズムなどといふと如何にも輸入品の様で、我
國には新しい感じがする。併し天地の開けたる
時から東西の別なく到る所にリズムは存在して居
る。リズムについて次の詞がある。

詩の父は音楽なり、音楽の父はリズムなり、リ
ズムの父は神なり。

云ひかへて見れば神又は自然はリズムを生み、リ
ズムは音楽を生むと云ふ事で、自然は完全な節奏
をかなで古代の神秘の詩を唄ひつゝ廻つて居る、
自然のリズムは海にも陸にも、地の上にも亦地の
下にて働いて居るのである。

リズムは人の心を動かし筋肉を働かしむるもの
である。彼の太鼓を叩いたり、笛を吹いたり、樂
器により、樂隊によつて、これを聞いて居る小供

をして我しらず手を動かさしめ足を踏ましめ頸を
振らしめる。其子供がリズムの中の人となれば踊
りもし跳ねもする。

幼兒はリズムをよく理解するものである。何と
なればリズムは自然から生れて來たものであるか
らである。幼兒はよく理解するが故によく踊るの
である、よく跳ねるのである。リズムは幼兒の筋
肉を振動する力を有つて居る、しかも愉快な感情
を興ふるものである。

リズムは自然の原動力である。而して極めて規
則正しいものである、この大なる力のあるリズム
から起る動作は従つて規則正しいことと、筋肉を
自然に動かすが故に其動作も無理のない極めて自
然な動作となる、然もそれが愉快な感情を惹起す

のである。

リズムによつて導かれた動作は自由と抑制によつて得べきもので、決してふしだらな動作や、又窮屈な束縛せられる様な運動は起らないのである、自由の内に抑制があり、抑制の内に自由がある、しかもそれが人工的でない、自然的な所に實に尊い所があると思ふ。

又リズム的動作は強き努力を要せずして大多數の筋肉に作業を分配するものであつて、それと同時に又徐々に作業量を蓄積するものである、これは六ヶ敷い理論の様に聞えるが、皆さんがリズムに合せて動作を實驗して見ると、リズムの節々に起る蓄積も運動も明らかに了解せらるゝ事である。

此の如くリズムは偉大の力を持つて居るのであるが、こゝにいふ事は今初めて發見されたのではない。

フレーベル氏はリズム的動作について次の様に

語つた。吾々教育上から律動的の動作を取去つた時は即ち吾々自身が教育家としての資格を失ひ、それと同時に幼兒(保育さるべき者)としての資格を失ふものである。

又多くの我儘者や下品なもの即ち不行儀な幼兒の生活動作行爲はリズム的動作によつて洗ひ去ることが出来る、リズム的動作は幼兒を從順にし中庸を得しめ圓滿にし且強固にするものであると。

實にフレーベルの卓識は今更の様に驚くべきものである。又こゝにいふ事も云つた、リズムは自然を理解し藝術や音楽や詩などが啓發さるゝものであると。又プラトンは、リズムは國民として最も大切なもので遵法と服従の精神が生み出されるところ。

こゝに至つてリズムが如何に愉快なもので身體的に計りでなく、精神的に大なる効果ある事が理解さるゝのである。

リズムの生んだ音楽は實に此の効果を一層大に

らしむるもので、古代から音楽は存在し漸次に發達して今日に至つたのであるが、音楽が、幼兒の心靈を通じて身體に及ぼす其力の偉大なることは實に云ひ盡せぬ位である。

現今及將來に於て教育者で音楽を斯く深き意味ある尊きものと確信して居る人の多からん事を望むのである。孔子が三千年の昔に樂を以て最重きものとしたのは實に深き識見と云はねばならぬ。樂は東西其發達を異にして居るが何れも尊いものである。幼兒は原始的であるが故に其リズムも亦然るべきものでなければならぬ、併し幼兒は天性音楽の耳のあるものである。中々高尚な音楽も感じ得るものであるが、動作に至つては極めて原始的なものを擇まねばならぬ。歐米に於ける古代より傳はれるリズムと我國の幼兒によつて取扱はれて居る、日本旋律共に幼兒によく適合して居るものが多い。此多いリズムの中から其曲の氣分を取り、其の曲の含む意味を了解し咀嚼してこれを樂器

を通じて幼兒の心美に通はしむる時は、幼兒は實に保母即ち彈奏者の氣分と一致して、ここに立派な保育が行はるゝものと思ふ。

夫れ故に保母は樂器に自分自身を使はれるのではなく、樂器を思ふ存分に使つて、其曲の氣分や意味を發揮し幼兒の聽覺に訴へたならば、幼兒は掌中の玉となるのである。かくリズム……音楽の重要な價値を持ち殊に教育上……保育上至大なる功果ある事が自覺された保母の方々は忍耐と勤勉とを以て音楽の修養とリズムの研究とに力を注いで貰ひたいと思ふ。これは常に幼兒の幸のみに止まらない。自己の修養にも多大の利益ある事を深く信ずるのである。